

アルジェリアはマグレブ諸国初の24時間報道TV局、AL24 NEWS 放送を1954年の革命蜂起67周年記念日となる11月1日零時から開始しました。Salim AGAR 総裁の声明によれば、AL24 NEWS は

- *アルジェリアの声を世界に届けることと世界でのアルジェリアの顔となることを目指す
- *マグレブ諸国並びに海外在住のアルジェリア人を主な視聴者とする
- *アルジェリアの国際舞台への復帰を図る
- *報道言語はアラビア語60%、フランス語35%、英語5%で高品質の画質と音声。

AL24 NEWS はウェブサイト <https://www.okbob.net/al24-news-algeria.html> にて視聴可能です。但し、現状試験放映中であり24時間報道とはなっておりませんがアルジェリアの番組と雰囲気をも十分に楽しめると思います。

これを機会にアルジェリアのテレビ、ラジオ放送に関し思い出話をしますと、当方が最初に駐在した80年代はアラビア語の素養の無い者にとってこれらの楽しみは略皆無でした。国営放送局 ENTV で外国映画をフランス語吹き替えで放映しておりましたが政治色の無い西部劇等が主体で毎日の娯楽にはならない状況でした。従い必然的に日本から持参のビデオの鑑賞と、駐在員家族で集まりカラオケ大会等で愉しむのが一般的な日頃の気晴らしとなっておりました。カラオケ大会では必ず「カスバの女」が謳われたものです。大学での専攻に加え日墨交換留学第三期生としてスペイン語の素養はありましたので対岸スペインからのラジオ放送は国際情報収集並びに娯楽面で大いなる息抜きとなったものです。

一方、二度目の2000年代のアルジェリアは80年代とはあらゆる面で様変わりしており未だ「失われた暗黒の10年」の余韻はありましたが隔世の感がありました。外資に門戸が開かれると共に欧米人在住者も増え、テロに明け暮れた90年代の暗い生活がアルジェリア特有の光あふれる社会に変貌していたのを実感しました。貧民窟にもバラボラアンテナが林立し国民すべてが地中海の北のテレビ番組を楽しんでいたと思います。社宅としていたシェラトンホテルでは社長から NHK World を入れることを提案されましたが、有料の JSTV は駄目と云うので代わりに個人的に興味のあったトルコの TRT を入れてもらったのも懐かしい思い出です。80年代は英語を喋るアルジェリア人は極めて僅かでしたが、今や英語は炭化水素公社(SONATRACH)でも喋る人間が増え商社員の仕事も大分楽になっていると思います。

80年代はテレビ、ビデオ、白物家電、衣類、食器、食料品等一切合切を赴任時の船便で持ち込み、パリからは土産物ではなく幼い子供の為に重たい長期保存のミルクパックを引きずるが如く持ち帰っていた時代を思うと我が家で憩いながら「ここは地の果てアルジェリア」からの24時間TV報道を視聴できる時代を大いに喜びたいと思います。

渡部秀文